

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立小金井工業高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）

(2) 事務局の構成

主幹教諭(教務担当)＝事務局長、学年代表4名 計5名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、

主幹教諭(教務担当)、生活指導主任、進路指導主任 計6名

(4) 協議委員の構成

同窓会長、小金井市教育委員会指導主事、近隣中学校長、小金井市商工会副会長、
近隣自治会副会長、小金井警察署員、保護者代表(2名) 計8名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和4年6月23日（木）内部委員6名、協議委員7名

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出

学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題

本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和4年11月17日（木）内部委員6名、協議委員5名

授業公開、これまでの教育活動に関する報告

協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議

第3回 令和5年3月2日（木）内部委員6名、協議委員7名

学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議

次年度に向けた方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和4年6月23日（木）内部委員4名、協議委員3名

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察

今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和4年11月17日（木）内部委員4名、協議委員3名

今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

第3回 令和5年3月2日（木）内部委員4名、協議委員3名

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

令和4年12月23日～令和5年1月13日

対象	対象数(人・件)	回収(人・件)	回収率(%)
教職員	26	26	100
生徒	59	43	72.8
保護者	59	21	35.6
地域	13	10	76.9

(3) 主な評価項目

学校運営（ライフ・ワーク・バランス）、学習指導、生活指導（体罰、いじめ）、進路指導、部活動・特別活動（学校行事）、健康・安全、施設・設備

※学校経営計画に基づく取組をより適切に評価するため、評価項目の全面的な見直しを行った。

また、評価を5段階から4段階に改めた。

(4) 評価結果の概要

すべての項目について、教職員、生徒、保護者の半数以上から肯定的な回答を得た。

ア 学校運営に関すること

(ア) 「スクール・ポリシーの周知・理解」については、令和3年度において課題とされた項目である。肯定的な回答をした教職員が76%（令和3年度：82.6%）にとどまっており、生徒は58.1%（令和3年度：48.0%）であった。

(イ) 「学校生活の充実度」については、95.3%の生徒が肯定的な回答をしている。

(ウ) 「OJT及び業務継承のための校内人事・業務分担」について肯定的な回答をした教職員は64%、「多摩科学技術高校との連携」については60%、「経営企画室職員との連携」については64%にとどまっている。

(エ) 「特別支援教育の推進」「募集対策」については、全教職員が肯定的に捉えている。

(オ) 「募集対策」について、(工業科の)積極的な情報発信、週休日の説明会設定、学年に関係なく参加できる体制などが地域の意見として出された。

(カ) 小学生向けの体験学習（わくわくどきどき工作スタジオ）について、地域の評価は高かった。（出前授業等の）中高連携の検討についても挙げられていた。

イ 学習指導に関すること

(ア) 「ICT活用を含めた授業の工夫」について肯定的な回答をした教職員は72%であったが、生徒は93.0%（令和3年度：76.9%）、保護者は81.0%（令和3年度：79.6%）と肯定的に捉えている上に、昨年度に比べ改善がみられる。

(イ) 「資格や検定の指導」については、教職員全員が肯定的に捉えている一方、生徒は79.1%、保護者が81.0%となっている。

(ウ) 「成績評価が自分の学習改善につながっている」と感じていない生徒7名中6名が、「一人一人の状況に応じた指導・支援が充実している」と感じていない。

(エ) 「授業のユニバーサルデザイン化」について肯定的な回答をした教職員は68%であった。

ウ 生活指導に関すること

(ア) 「いじめや体罰、暴言をなくすための取組」について肯定的に回答した割合は、教職員が

96%（令和3年度：78.3%）、生徒が88.4%（令和3年度：61.5%）、保護者が95.2%（令和3年度：61.2%）であり、大幅な改善が見られる。

エ 進路指導に関すること

（ア）「進路に関する情報提供やアドバイス」「就労することの大切さの指導」については、いずれも教職員、生徒、保護者の90%以上が肯定的に捉えている。令和3年度は課題として挙げられた項目であり、改善がみられる。

（イ）「自己理解を深めるための取組」について肯定的な回答をした生徒は90.7%だったが、教職員は80%であった。

（ウ）職場体験の場として近隣の小・中学校も協力いただける可能性があることが分かった。また、地域での職場体験実施をとおして、生徒の経験となるだけでなく、地域における学校の理解にもつながる可能性があることが分かった。

オ 部活動・特別活動（学校行事）に関すること

（ア）「部活動の充実」について肯定的な回答をしている生徒は79.1%、保護者は61.9%であった。

（イ）「ボランティア活動などの地域活動の推進」について肯定的な回答をした割合は、教職員が68%、生徒が74.4%、保護者が66.7%であった。

カ 健康・安全に対する指導に関すること

（ア）令和3年度の課題として挙げられた「健康管理や安全指導の充実」について肯定的な回答をした生徒は90.7%（令和3年度：71.1%）であり、改善が図られたと考えられる。

（イ）「悩みの相談への対応」について、教職員は92%が肯定的な評価をしている一方、生徒は79.1%、保護者は76.2%と、教職員との意識の差が見られる。また、否定的に捉えている生徒9名は、ほぼ1・2年生であった。

キ 施設・設備に関すること

（ア）「給食の充実」について、教職員の92%、生徒の86.0%が肯定的に捉えているが、保護者は71.4%にとどまっている。

ク その他

（ア）生徒及び保護者のアンケート回収率が大幅に下がり、特に保護者は35.6%（前年度比58.6%低下）となった。

（5）評価結果の分析・考察

ア 学校運営に関すること

- ・ 生徒、保護者だけでなく、教職員にもスクール・ポリシーを周知・理解する機会を設定することが大切である。
- ・ 学校ホームページの活用、週休日の説明会、公開講座、異校種間連携など、より一層積極的に情報発信し、地域における学校の理解や、入学を希望する生徒の増加をねらうことが大切である。

イ 学習指導に関すること

- ・ 今後も生徒の実態把握に努めるとともに、ICTの活用やユニバーサルデザイン化などによる授業の工夫、改善を進めることが大切である。

ウ 生活指導に関すること

- ・「いじめや体罰、暴言をなくすための取組」については、生徒や保護者の全員が肯定的回答となるように、継続的に取り組むことが大切である。

エ 進路指導に関すること

- ・これまでの取組を今後も充実させていくことが大切である。

オ 部活動・特別活動（学校行事）に関すること

- ・部活動は、活動時間や地域移行の課題もあることから、可能な範囲で充実した活動ができるようにすることが大切である。
- ・ボランティア活動などの地域活動は、第3学年の教科「人間と社会」における夏の地域巡回や清掃活動に限られているため、推進していると感じる生徒、保護者の割合は低くなったと思われる。これまで、新型コロナウイルス感染症の影響により、秋華祭が一般公開できないなどの活動上の制約もあったことから、今後活動制限の緩和に合わせて、可能な限り生徒の参加を推進することが大切である。

カ 健康・安全に対する指導に関すること

- ・不登校経験者や学力に課題のある生徒、何らかの特性を抱える生徒、家庭環境が厳しい生徒など、多様な生徒が年々増加している。このことから相談体制の充実がますます課題となる。

キ 施設・設備に関すること

- ・給食について、近年利用する生徒の割合は低下している。変化している要素としては「値上げ」があるが、今回のアンケートだけではわからない部分があるため、別途調査することも考えられる。

ク その他

- ・生徒及び保護者のアンケートの回収率が大幅低下したことについて、令和4年度のアンケートは Web 回答方式としたが、紙面回答も可能としていたことから、回答方式の問題ではなく、生徒を通して配布したアンケート依頼のプリントが保護者に届いていなかったことが予想される。また、生徒は学習用アプリ（Teams）内で依頼したが、確認をしていない生徒がいることから、アプリの確認を習慣化する取組が課題であると考えられる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・協議委員に新たな地域関係者を加え、全3回を対面で実施したことをとおして、充実した協議会となった。
- ・学校評価アンケートの項目を見直したことにより、学校経営計画の取組状況について分析的に検討することができた。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・より適正な評価を行うためには、生徒や保護者、協議委員に対して、より積極的な情報発信が求められているとともに、学校評価アンケートの回収率の向上に工夫が必要であることが分かった。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営に関すること

- ・生徒、保護者のみならず教職員も含め、スクール・ポリシーを周知する。
- ・保護者へ直接情報提供できるよう連絡体制を整備する。

(2) 学習指導に関すること

- ・授業評価や学習評価の結果を踏まえた授業改善を推進する。
- ・個に応じた指導の充実のため、ICTの効果的な活用やユニバーサルデザインの視点に基づいた授業の改善を推進する。

(3) 生活指導に関すること

- ・生徒が安心、安全な学校生活を送ることができるよう、これまでの取組を継続する。

(4) 進路指導に関すること

- ・生徒がよりよい進路選択ができるよう、新たに開始した取組を含めてさらに充実させていく。

(5) 部活動・特別活動（学校行事）に関すること

- ・感染症対策のガイドラインに基づき、生徒参加の特別活動の再開、充実を図る。

(6) 健康・安全に対する指導に関すること

- ・多様な生徒が年々増加していることから、学級担任、保健室、SC等の連携による相談体制を一層充実させていく。

(7) 施設・設備に関すること

- ・給食の充実を含め、これまでの維持管理体制を継続する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) (評価した) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
6	0	0	0	0	0	1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回